

春まだ浅いくじゅうの

沓掛山マンサク鑑賞登山

くじゅう

かんじょう

1503m

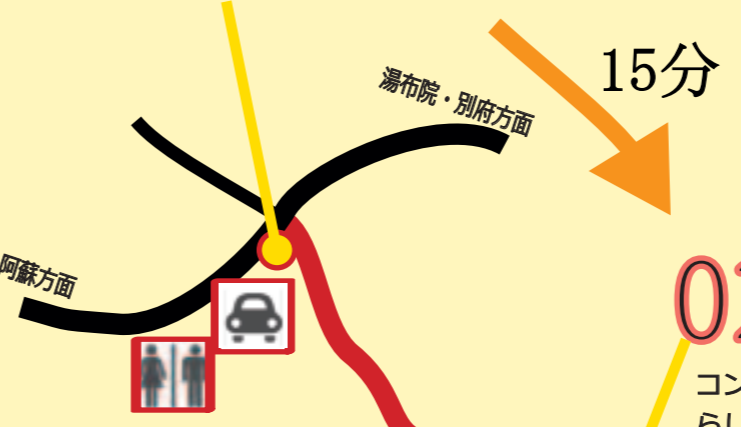
1330m

牧ノ戸峠 ⇒ 沓掛山

01

01 牧ノ戸峠登山口 標高1,330m

別府から阿蘇にぬける「やまなみハイウェイ」の最高地点・牧ノ戸峠は、3月までは日によっては積雪や凍結もあるかもしれません。事前に道路情報を確認してから出かけるといいでしょう。別府・由布院または熊本・阿蘇からの「九州横断バス」を利用するのもおすすめです。着いたらトイレをすませて、荷物を再確認しましょう。



02 展望台

コンクリート舗装の道を、息を切らしながら歩くと、あずまの見える展望台に出ます。三俣山の左に由布岳がながめられる絶景で、一息入れよう！

15分

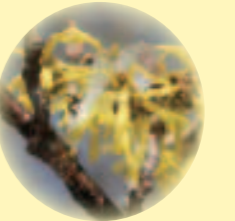
03 沓掛山の肩

展望台からも舗装された道が続いて、最後に階段を上ると尾根に出ます。ここからはくじゅう中心部へ続く山並みや、遠く阿蘇が望めます。

10分

04 沓掛山頂 標高1,503m

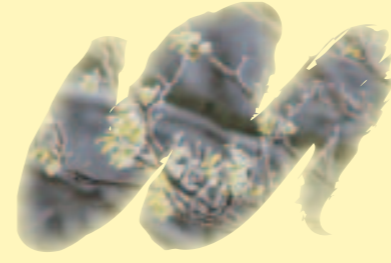
山頂の標識は、登山道から少しそれたところに立っています。つまずいたりしないように気をつけて、360度の展望を堪能しましょう。



05 山頂東の尾根

山頂からの下りは、はしごや階段もある気を抜けない道。左側にみられるマンサクに励まされながら慎重に下ろう。岩を下って土の道につくと、花の時期なら満開のマンサクが迎えてくれますよ！

10分



まだまだある、くじゅうのマンサクスポット

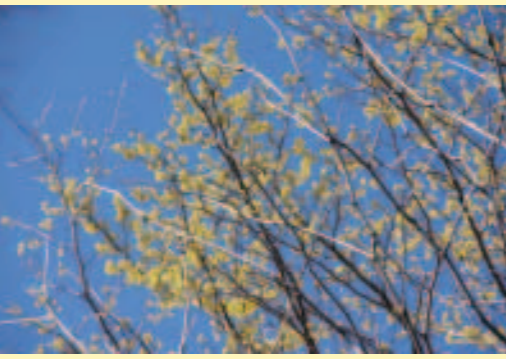


【佐渡窪 (さどくぼ)】

鍋割峠と鉢立峠の間にあるくぼ地、佐渡窪は、登山者によく知られたマンサク鑑賞地。豪雨による土砂の流入もあって、登山道沿いの木の勢いはやや衰えましたが、周囲の山に咲くマンサクも含めて、見事な景色が広がります。
▲ 沢水展望台登山口 または一番水登山口から約1時間40分。

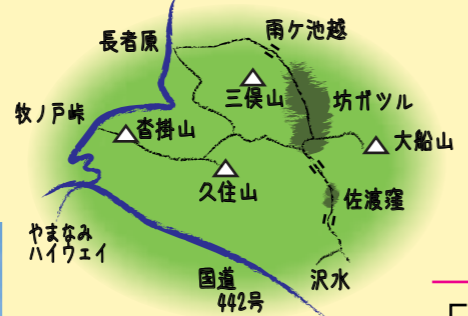
【坊ガツル (ぼうがつる)】

九州の岳人の聖地ともされる坊ガツルは、四季を通して登山者やキャンパーでにぎわいます。その坊ガツルでは、キャンプ場の周りでも多くのマンサクの花が見られます。法華院温泉の近くでも、見事な株が楽しめますよ。
▲ 長者原登山口から雨ヶ池越を経由して約2時間30分。



【雨ヶ池越 (あまがいけごえ)】

坊ガツルへの表玄関として登山者が多い雨ヶ池越。3月下旬から4月にかけて、三俣山の北斜面のマンサクが見ごろを迎えます。登山道沿いの株は多くはありま



せんが、三俣山の山腹も含めた個体数はくじゅう随一！黄色い木々が山の斜面をいろどるようすは圧巻です。
▲ 長者原登山口から約1時間30分。



【他にもまだまだ】長者原からはタデ原の周辺の林でも見つけられます。指山の山麓・中腹にもたくさん。赤川登山口の周辺や登山道沿いも素晴らしいです。他にも探してみてください。

牧ノ戸峠へのアクセスは？

やまなみハイウェイの交通規制情報は、大分県が提供する「おおいた防災情報ポータル」で確認できます。すべり止め規制のほか、牧ノ戸峠のライブカメラも見られるので、路面や駐車場の状況もある程度把握することができます。下のQRコードを読み込んで下さい。
九州横断バスは、事前予約制です。最新の時刻表や予約については、産交バスまでお問合せ下さい。



マンサクの花のつくり



マンサクの花は「4数性」で、花弁、がく片、雄しべは4つずつです。つぼみのときに、花弁はくるくると巻いていて、開花とともにリボンのように伸びていきます。

どこにはえているの？

よく似たオオバマンサク、マルバマンサク、アテツマンサクも含めると、北海道西部から九州までの山地に広く生えていて、南限は鹿児島の高嶺山系とされています。これらは日本固有種です。
森の中にも育ちますが、日当たりのよい尾根や、やや乾いた斜面を好むようです。
中国には、よく似た「シナマンサク」があり、日本のマンサク同様、庭木としても人気があります。
北アメリカの「アメリカマンサク」の抽出液は、皮膚病の民間薬として使われるそうです。
常緑の「トキワマンサク」は、マンサクとは別の属になります。